



翠巒 Mini Press 第181号 2023/8/18 編集・発行 高崎高校新聞部

# 課題研究最終成果発表

## 生徒主体で行なうSSH活動



研究結果を発表している3年生

高崎高校(以下高崎)は、スーパーサイエンスハイスクール(以下SSH)の指定校である。SSHとは先進的な理数教育を実施し、大学の共同研究や国際性を育むための取組を推進する高等学校のことを指す。本校では、「Society 5.0時代を牽引するリーダーとしての資質・能力を備えた人材を育成する」という目標のもと、自分で問いを設定して研究する課題研究などの活動を行なっている。

高崎はSSH活動の一環として、課題研究を行なっている。1年次には、自分の素朴な疑問をテーマに研究を進め、その成果を発表する。2年次以降は、通常クラスとSSHクラスに分かれて活動する。通常クラスでは、ビジネスプランなどの「提案型」課題研究に取り組み、今年度からはプランの提案にとどまらず、アプリ等の試作も行なう。3年次には大学研究として、大学進学の意味などについて調べる。

一方SSHクラスでは、「提案型」課題研究に加え、理数分野に特化した研究をともに行なう。高崎OBの研究者や技術者と連携し、より専門的な研究を行なうことができる。また、3年次には最終成果発表会の場で、大学教授らの来賓と生徒の前で研究結果を報告する。今回の発表会では、AIの画像認識に関する研究や、教室の空気を効率よく冷やす方法などの幅広いテ

マの研究結果が発表された。その中で、(※)STEMA型教育ロボットの開発について研究を進めてきた根岸孝次くん(3の1)に話を聞いた。なぜ、このテーマにしたのかを聞くと、「従来のプロ

グラミング教材では、自由度が低かった。そこで、作りたいものを作れるプログラミング教材を開発したいと考え、研究を始めた」と説明した。また、研究上の苦労については、「高校生のみで教材を作るため、教材内で取り上げる内容に間違いがないよう苦心した」と話し、今回の発表について「説明やスライドを工夫したが、伝わっていない人が見られた」と述べた。最後にSSHクラスについて、「自分のやりたいことがあり、問いを解き明かしたいという人に向いていると思う。ただ、やりたいことが明確に存在しないという人にとって、行動力のある仲間と生活できるという点で大きなメリットがある」と語った。

# 高崎生と伝統を支える 応援部



凛とした姿で立つ鈴木くん

高崎高校応援部は、今年で創部から72年という歴史をもつ部活動だ。2年生が4人、1年生が2人の計6人で活動している。

今回は、第七拾弍代応援部長である鈴木晴斗くん(2の1)に話を聞いた。

まず、応援部に入部したきっかけについて、「高高応援部の活動の活発さに魅力を感じた。応援の際に使われる大団旗も日本が一番大きい。実際に入部し

# 高前定期戦

### さらなる高み、8連覇へ



▲▼昨年度の定期戦の様子



紙面割担当(表)荻野(裏)荒井

来たる9月22日に高崎で、ライバル関係の高崎と前橋高校(以下前高)が対戦する第77回高前定期戦が行なわれる。定期戦は、昭和24年(1949年)に始まり、今なお続く伝統的な行事である。定期戦では、両校の運動部が対戦する部活動対抗と、部活動対抗に出場しない生徒が様々な競技に取り組み一般対抗の合計点で勝敗が決まる。昨年度は、部活動対抗が陸上競技、バスケットボール、

て活動する中で、応援部の活動がこれほど盛んなのは、高崎ぐらいだと感じている」と語った。

次に、応援部の活動については、「日々、校歌や高崎の応援歌である『翠巒』を歌うことから始まり、迫力ある動きの『型』を練習している。応援部として応援するからには、相手よりも厳しい練習に励む必要がある。これらの練習は壮行会や、高崎高校と前橋高校が対抗心を燃やしてスポーツで競い合う『定期戦』、毎年開催される『全国高等学校野球選手権大会』における応援で十分に発揮される」と話した。

また、やりがいについては、「応援した人やチームが勝った時には、応援部としてのやりがいを感じている。ただ、応援部は支える立場であるから、やりがいというよりも全力で支えるといった気持ちの方が強い」と述べた。

最後に、今後の応援部の目標について、「歴代で一番体力のある力強い応援部になりたい」と語り、「そのためにも、他の運動部に負けないぐらいの厳しい練習を行ない、力をつけていきたい」と熱意を込めて話した。厳しい練習を繰り返して、日々、文武両道に励む高崎生と高崎の伝統を支える凛とした姿の団長が印象に残った。

(木村)

バレーボール、硬式野球などの13種目、一般対抗がソフトボール、ソフトテニス、卓球などの10種目、合計23種目が行なわれた。一般対抗では35・5対45・5で前高に敗れるも、部活動対抗において51対37で大勝し、合計85・5対74・5で高崎が勝利した。結果として最高記録の7連覇を達成した。

今年度も、昨年と同様に23種目を実施する予定であり、今年も高崎が勝利すると、8連覇を達成する。

定期戦の名物は、一部の生徒が必勝を祈願して、バリカソンで髪をVの字に刈る「Vカット」だ。

また、互いに相手を揶揄するために、高崎生が前高生のことを「白豚(しろぶた)」と呼び、前高生が高崎生のことを「山猿(やまざる)」と呼んでいる。白豚は、前高生が履くクリーム色のスポンに由来し、山猿は、高崎の所在地が観音山の麓であることに由来する呼称である。今までの76回の歴史で、対戦成績は高崎が46勝24敗3分(中止3)と大きく勝ち越している。伝統とプライドをかけた両校の戦いが、今年もやってくる。

(野島)

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---